

令和 6 年 6 月 18 日現在

機関番号：32689

研究種目：新学術領域研究（研究領域提案型）

研究期間：2018～2022

課題番号：18H05446

研究課題名（和文）古代エジプトにおける都市の景観と構造

研究課題名（英文）The Landscape and Structure of Ancient Egyptian Cities

研究代表者

近藤 二郎（KONDO, JIRO）

早稲田大学・文学学術院・名誉教授

研究者番号：70186849

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 62,900,000円

研究成果の概要（和文）：「古代エジプトの都市とは何か」をテーマとして研究を実施した。これまで都市が誕生した古代西アジア（古代メソポタミア・古代アナトリア・古代パレスチナなど）地域の「都市」が、「古代の都市」であると言われてきた。そのため、こうした古代西アジア型の都市を基準として考えると古代エジプトの都市は、大きく異なっており、西アジアの都市とは大きく異なった姿を見せている。このため、かつて「エジプトは都市なき文明」と言われていたこともこうした背景があった。古代西アジアの都市とは違う古代エジプトの都市の姿を都市の景観と都市の構造から分析し、古代エジプトの都市の特徴を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

古代エジプトの都市をその「景観」と「構造」を中心として総合的に研究したことは、これまでほとんどなかった。従来は「都市」が誕生した古代西アジア地域の都市が、都市の基本を満たしていると言われていた。そのため、古代エジプトの都市は、古代西アジアの都市と異質であると思われ、その本質的な特徴が明らかにされていなかった。

古代エジプトの都市は、古代西アジアの都市とは全く異なった特徴を有していることを明らかにしたことは、学術的にも意義あることである。古代の西アジアとエジプトを「古代オリエント」という地域名で扱うことも注意が必要であることは社会的な意義があると言えよう。

研究成果の概要（英文）：We conducted the research with the theme of “what is an Ancient Egyptian city?” Till then the cities belonging to Ancient Western Asian area (Ancient Mesopotamia, Ancient Anatolia, Ancient Palestine) was considered to be the template of “the Ancient City.”

However, compared to such cities, the Ancient Egyptian cities are greatly different. As a result, in the past, it was said that “Egypt was a civilization without cities.” We revealed the characteristic features of Ancient Egyptian cities different from Ancient Western Asia by analyzing their landscape and the structure.

研究分野：考古学、エジプト学

キーワード：古代エジプト 古代エジプトの都市は 古代エジプトの都市の景観 古代エジプトの都市の構造 古代エジプトの王宮都市 古代エジプトの都市のレイアウト 古代エジプトの建築物 古代西アジアの都市との相違

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

(1)古代エジプトでは、古代西アジア地域、特に南メソポタミアのように政治的に独立した都市や都市国家は発展せず、王朝時代初期の文献資料においても都市の存在を読み取ることができないことから、古代エジプト文明は、「都市なき文明」であったという考え方が長い間広く受け入れられてきた。しかし、1970年代以降、エジプト考古学において集落の発掘調査が進展した結果、前4千年紀から都市が存在するらしいことが明らかになってきた。その規模も西アジアの都市と比較しても十分に都市と言える解釈されている。今日では、古代エジプトには都市が存在したが、同時期の西アジアや古典古代以降のヨーロッパの都市とは異なる特徴と性格を持っていたと考えられている。エジプト学における都市研究は後発であったもう一つの理由としては、古代の集落や都市がナイル川流域の沖積地に集中していたため、その多くがナイル川の流路の移動により痕跡がほぼ消滅してしまったか、あるいは現代の都市や集落の下に埋没している場合が多く、発掘調査が困難であったことも指摘される。その一方で、低位砂漠に造営されたピラミッドや神殿、墓地と行った遺跡は、その地の環境とも相まって残存状況が極めて良好であり、他の古代文明に比類のない膨大な量の物質文化や文字史料が残存していることから、エジプト考古学がそのような資料を中心に発展してきた。その反省もあり、1970年代以降には徐々に都市、集落の考古学的発掘調査が増加しており、最近になってようやく包括的な都市の研究が始まったと言える。

(2)古代エジプトにおいては、王都や王国の統治のための地方都市などの例を別として、神殿や墓域を中心に都市が発展していった傾向が見られる。例えば、ピラミッドの建設のために労働者等が居住する場所、行政施設、王宮施設から成る所謂「ピラミッド都市」が建設され、その存在が文献史料からも窺える。また、新王国時代になるとメンフィス、テーベ、アマルナなどの神殿都市（あるいは宗教都市）が発達し、宗教儀礼や祝祭のルートに従い神殿や王宮が計画的に配置され、墓地の位置も都市の景観の一部として発展していったことが判明している。

(3)近年では、人工衛星の画像解析や沖積地での土壌サンプル調査などにより、古代の都市集落の位置や都市集落間のネットワークが解明されつつある。

2. 研究の目的

古代エジプトは、ナイル川の下流域が国家として発展した世界最古の領域国家であるとされる。かつて古代エジプト文明は、「都市なき文明」であったと主張されてきたが、エジプト各地で実施されてきた近年の考古学的発掘調査によって、古代エジプトにも都市が存在するらしいということが明らかになってきた。また従来のエジプト学において研究の比重が置かれてきた墓地や神殿・祭祀施設の研究も、都市とのかかわりにより、マクロな文脈で理解することが重要になっている。こうした研究の進展を背景として、本研究では前4千年紀の先王朝時代から古代末期（ギリシア・ローマ時代）までの古代エジプト各地の都市の景観とその構造について、文献史料（資料）と考古資料の双方から研究し、その発生と変容について通時的・共時的に解明することを目的とする。

3. 研究の方法

研究期間において、上記の目的を達成させるために、特に以下の研究項目に焦点を当てる。

(1)都市景観とネットワーク：都市の諸要素や都市の活動を記述した文献史料：衛星画像解析や物理探査データ、考古地理データと都市の分布などと比較し、各時代の都市の景観を復元する。

(2)王権・神殿・墓地と都市の構造：中心的都市の神殿、王宮、墓地の形成と発展について考古資料と文献史料により研究する。

(3)政治・行政と社会構造：王碑文・行政文書・経済文書などの文献史料と考古資料から、領域国家の支配秩序の形成に際して、中心都市および地方都市が果たした役割を研究する。

(4)都市計画・都市建築の研究：建築史学の視点から古代エジプトにおける都市計画・都市建築の詳細な分析を実施、その成果を通時的な都市の形成と発展を含め都市景観の復元に反映させる。特にマルカタ王宮やアマルナ王宮などの新王国第18王朝時代の王宮都市を取り上げる。

(5)現地フィールド・ワークによる都市景観と構造の調査研究：日本の調査隊が発掘調査を実施している諸遺跡（コム・アル＝ディパーウ遺跡、サッカラ遺跡、ダハシュール北遺跡、アコリス

遺跡、テーベ遺跡等)の調査において都市景観と構造を考古学的に考察することで、エジプトにおける都市景観と都市の機能の諸相を実証的に明らかにする。

(6)古代エジプトにおける都市の出現段階に関して、ナイル川下流域において、先王朝時代後期から初期王朝時代にかけて最大規模の遺跡であるヒエラコンポリス遺跡の調査を分析・検討することで、出現期の古代エジプトの都市の様相を明らかにする。

4. 研究成果

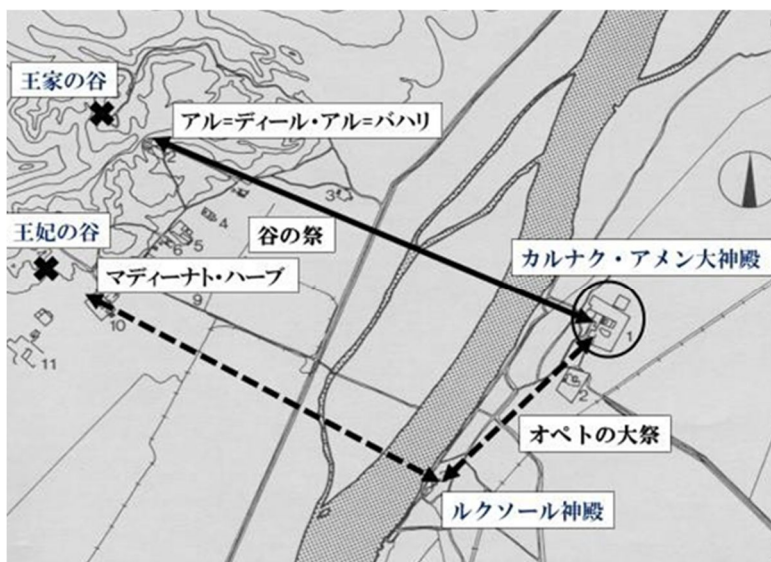
(1)前4千年紀の先王朝時代は、文明形成期であり王朝社会の基礎となる様々な要素が生み出されたが、「都市の景観と構造」においてもその原型が作られた。都市の景観において特に重要となる儀礼祭祀の形成についてまとめる。古代エジプトでは、神や故王への供物をもちいた王の儀礼祭祀が継続的におこなわれていた。こうした儀礼の形成過程は先王朝時代に求められるが、それを明瞭に示す考古資料はきわめて少ない。ヒエラコンポリス遺跡において2017年と2020年の発掘調査によって、軽が7~8mほどの人工的なマウンドが発見され、大小さまざまな木杭と柱穴が確認されていることから、マウンド上には柵で囲まれた構造物があったと考えられる。出土遺物には、接合すると全長1.5m~2m程の土製カバ像となる大型土器片多数、完形のメイスヘッドや土製人形などが含まれている。このマウンドが、墓地への玄関口であることから、重要で神聖な場所とされ、そこで儀礼祭祀がおこなわれていた。墓地を守護するように、マウンド上面に大型のカバ像が祠堂内に鎮座し、小型のボウルで香を焚いて清め、ビールを奉納し、メイスヘッドや土製人形などを奉納したと推測される。ヒエラコンポリスのエリートによってはじまる祖先祭祀が、王の儀礼祭祀へと発展していく。祖先祭祀は祖先からの加護を願うもので、王権という王の神性や正当性を得るためでもあり、王の儀礼祭祀の本質である。古代エジプトにおける都市の主要構成要素は、祭祀施設や神殿であることに疑いの余地はない。

(2)古王国から中王国までの文字資料から niwt と dmi に関する記述を検討した。古王国時代の墓銘に墓主の生前の善行を記した「自伝碑文」には、模範的な(倫理規範のマアトに即した)生涯の後の来世への旅立ちが常套句「私は私の niwt から出た/来た。私は私の州から(墓へと)降りた」で示されたものが多くみられ、niwt とそれを含む州(ノモス)が(少なくとも上流階級の意識のなかでは)人々の生活の場とされていた。古王国時代には王家の遠征や建築事業に必要な物資を貯蔵・供給する行政センター(第6王朝時代には Hwt としてまとめられた)が各地に設けられており、niwt およびその地方神殿はそれらとともに王権への資源供給ネットワークの一環をなしていたが、王権の直接支配下にはなく、それぞれの地元の有力者(「niwt の長」)が支配する集落だった。古王国後期(第5~第6王朝)、特に上エジプトで、主要な niwt を拠点とする有力者たちは州の行政に関わる種々の権限を持つようになり、ついには「州知事」に任命され土着化する。彼らは第6王朝後半には、有力な地方神殿の神官長を兼ねてその経済力と宗教上の権威も手中にする。第一中間期における物流、特に水運によるネットワークの発展が各地の dmi (波止場とそれに伴う居住地)の増加と発達を促し、これが dmi を生活の場としても意識させる一因になった。第一中間期になると niwt のための水運の提供や渡し船や輸送船の建造とそれをを用いた穀物や家畜の輸送が主要な業績としてしばしば誇示されるようになる。中王国時代において niwt が帰属意識を持つ住民からなる共同体とされていたことは、「niwt の者」と呼ばれる人々、唯一の肩書として「niwt の生者」と称する人々の名前が文字資料に数多く見られる。

(3)中王国時代の集落や遺跡の位置や、「砂漠の道」を通じた活動との関連が強い岩石・鉱物資源の採掘地の位置を重ねることで、マクロな視点から集落と砂漠の道との関係を吟味したものである。対象は上エジプトと下エジプトの州(ノモス)であり、分析の結果、約4分の3の州で州都の近くに「砂漠の道」の入口が存在している状況が観察され、「砂漠の道」とナイル河谷が交わる地点に州都のような大きな都市が形成される可能性が示唆された。本研究の分析方法としては「砂漠の道」に関する複数の研究成果で公開されている地図をGISのジオリファレンスによって一つの地図に統合し、中王国時代の州都や集落遺跡などの位置を重ねることによって分析を行った。分析をするにあたって中王国時代の都市や集落遺跡のデータベースを作成した。以上のように、古代エジプトの中王国時代の集落や都市が形成される地点が、陸のネットワークとして重要な「砂漠の道」と関連していることが明らかになった。同様に中王国時代以外の時代の集落や都市の位置も検討していく必要がある。また、陸路だけではなく、ナイル川流域や紅海沿岸、地中海沿岸部などでも分析をおこなっていくことで、各地の集落や都市遺跡がどのような場所に形成していったかを明らかにしたい。

(4)古代エジプトは、国土の中央部をナイル川が南から北に向けて縦貫している。そのため初期の時代から南北に二大拠点形成されていた。やがて、南北の二大拠点として北のメンフィス(下エジプト第1ノモス)と南のテーベ(上エジプト第4ノモス)に新王国第18王朝以降に特

化していく。一般にテーベの名称で知られる上エジプトを代表する拠点都市で、ナイル川の両岸を占有する。第一中間期の第11王朝や第二中間期の第17王朝、新王国の第18王朝の出身地でもある。古代名はウアセトで、古代ギリシア人はディオスポリスと呼ばれる。テーベの位置する上エジプト第4ノモスには、西岸の第18王朝後期のマルカタ王宮址を除くと、古代エジプトの都市遺跡の全容を示すような都市址は発見されていない。近年、ナイル川西岸のマルカタ王宮址付近で発見されたアメンヘテプ3世時代の「失われた黄金都市(The Lost Golden City)」にしても都市の全体像を示すものではなく、人々が生活していた古代エジプトの都市の大部分は地下に埋設されている。そのため古代テーベの都市の景観や構造を考慮する上で、テーベで行われていた重要な二つの祭礼である「谷の祭」と「オペトの大祭」の祭礼ルートを基準として配置され



テーベにおける二大祭礼と主要記念物の配置

ている。ナイル川東岸に位置するカルナク・アメン大神殿は、アメン・ラー神の聖地であり、二大祭礼の起点となっている。中王国にまで起源が遡るとされる「谷の祭」は、カルナクのアメン・ラー神が聖船でナイル川西岸に渡りカルナク・アメン大神殿と対峙するアル=ディール・アル=バハリのメンチュヘテプ2世の葬祭複合体を目指して巡行し、翌日に再び東岸に戻るものであった。東岸のカルナク神殿と西岸のディール・アル=バハリを結ぶテーベの東西軸線は、祝祭都市テーベを東西に貫く主軸線であり、この軸線は、冬至の太陽の日の出方向(116°)とほぼ一致するように整備されていった。一方、新王国第18王朝ハトシェプスト女王頃までに遡る「オペトの大祭」は新王国時代最大の祭礼で、カルナクのアメン・ラー神が南のルクソール神殿に妻であるムウト女神を訪ねる祭礼で、テーベの南北を結ぶ重要な軸線となった。またナイル川を挟んでカルナク・アメン大神殿と王家の谷、ルクソール神殿と王妃の谷が配置された。

(5)ヘレニズム時代のエジプト社会に関して、周知のように早くから膨大なギリシア語パピルス文書を手がかりとして、詳細な社会経済史的研究が蓄積されている。しかし、ナイル川の流域に点在していた都市と農村の空間構造とその動態については、この時代の集落遺跡の調査が十分でないこともあり、依然として不明な点が少なくない。これに対し、四半世紀に及ぶ中エジプトのアコリス遺跡の調査により、ヘレニズム時代におけるこの集落の盛衰が、ナイルを介した首都アレクサンドリアとの政治経済的な関係の変動と密接に関連していたことが明らかになっている。そうした成果を踏まえ、アコリス遺跡の周辺の採石場で切り出された石材の加工と搬出の場であった港(ホルモス)が、アコリスにおいては集落と外部世界との結節点として重要な役割を果たしていたことに注目し、一般に河川交通の拠点としての港がどのような機能を担っていたのかを、ベレニケス・ホルモス、プトレマイス・ホルムウ、ヘラクレオポリスという中エジプトの3つの集落を事例としてパピルス史料から検討した。その結果、これらの集落の港はしばしば王や高官の領域視察における船の停泊地であるとともに、現物による徴税のチェックポイントでもあり、とくにヘラクレオポリスの場合は、前2世紀中頃の王権によるナイル河川交通の管理強化が集落の発展に大きく寄与していた可能性が高いことが明らかになった。また、ヘレニズム時代におけるアレクサンドリアの発展過程を跡づけるために、この都市のもっとも著名な施設である大図書館の起源に関して考察し、初期ヘレニズム時代のアレクサンドリアで総合図書館という観念が誕生した歴史的背景を、史料の再検討から明らかにすることである。しばしば信頼度が低いとされてきた「アリストアスの書簡」に基づき、プトレマイオス1世とファレロンのデメトリオスの図書館創設に果たした役割を確認するとともに、プトレマイオスが哲学学校において蔵書を相続する慣行を持っていたデメトリオスら哲学者たちと接触を持つようになった契機が、プトレマイオスのいわゆるグランド・ツアーにあったことを指摘した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計43件（うち査読付論文 28件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 13件）

1. 著者名 KAWAI, Nozomu	4. 巻 9
2. 論文標題 The Time of Tutankhamun. What New Evidence Reveals	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Scribe: Magazine of the American Research Center in Egypt	6. 最初と最後の頁 44-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 田澤恵子ほか	4. 巻 39
2. 論文標題 古代エジプトファイ館楽の復元研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 古代オリエント博物館研究紀要	6. 最初と最後の頁 35-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山崎世理愛	4. 巻 65-1
2. 論文標題 エジプト中王国時代における器物奉獻儀礼の変容とその社会的背景	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 オリエント	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sakuji YOSHIMURA, Ken YAZAWA, Hiroyuki KASHIWAGI, et al.	4. 巻 10
2. 論文標題 A Brief Report of the Excavation at Dahshur North: Twenty-Seventh Season, 2020.	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 The Journal of Shouhei Egyotian Archaeological Association	6. 最初と最後の頁 24-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 長谷川奏・徳永理砂・西本真一ほか	4. 巻 30
2. 論文標題 中世の港町の構造を探る：サウジアラビア紅海沿岸ハウラー遺跡の考古学調査	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 西アジア発掘調査報告会	6. 最初と最後の頁 59-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 So HASEGAWA and Shinichi NISHIMOTO	4. 巻 1
2. 論文標題 Recovering the landscape of the waterfront at Lake Idku: Archaeological survey at Kom el-Diba	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 In A. Wahby and P. Wilson (eds.), The Delta Survey Workshop: Proceedings from Conferences held in Alexandria (2017) and Mansoura (2019), London	6. 最初と最後の頁 55-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 周藤芳幸	4. 巻 1029
2. 論文標題 古代アレクサンドリア図書館再考 蔵書から図書館へ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 39-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 周藤芳幸	4. 巻 4
2. 論文標題 ヘレニズム時代のエジプトにおける都市と港	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究	6. 最初と最後の頁 39-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 西本直子・西本真一	4. 巻 88(812)
2. 論文標題 古代エジプトの『合板』	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本建築学会計画系論文集、	6. 最初と最後の頁 2814-2820
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡崎伸哉・西本真一	4. 巻 52-1
2. 論文標題 日本におけるオベリスクの系譜	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本工業大学研究報告	6. 最初と最後の頁 45-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 近藤二郎	4. 巻 31
2. 論文標題 ウセルハト墓 (TT47) とコンスウエムヘブ墓 (KHT02) エジプト、ネクロポリス・テーベ。アル=コーカ地区、第14次調査	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 第31回 西アジア発掘調査報告会報告集、日本西アジア考古学会	6. 最初と最後の頁 88-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 河合 望	4. 巻 31
2. 論文標題 エジプト、サッカラ・ネクロポリスの展開を探るーエジプト、第6次・第7次北サッカラ遺跡調査 (2023)	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 第31回 西アジア発掘調査報告会報告集、日本西アジア考古学会	6. 最初と最後の頁 91-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 長谷川奏・西本真一ほか	4. 巻 31
2. 論文標題 ヘレニズム村落の構造を探る エジプト・イドゥク湖沿岸コム・アル=ディパーウ遺跡の考古学調査 (2023)	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 第31回 西アジア発掘調査報告会報告集、日本西アジア考古学会	6. 最初と最後の頁 96-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 矢澤 健・吉村作治	4. 巻 31
2. 論文標題 紀元前2千年起エジプトの葬制の変遷を探る ダハシュール北遺跡第29次調査 (2023)	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 第31回 西アジア発掘調査報告会報告集、日本西アジア考古学会	6. 最初と最後の頁 102--106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 長谷川奏・徳永里砂・西本真一ほか	4. 巻 31
2. 論文標題 中世の港町の構造を探る サウジアラビア紅海沿岸ハウラー遺跡の考古学調査 (2023)	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 第31回 西アジア発掘調査報告会報告集、日本西アジア考古学会	6. 最初と最後の頁 82-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 馬場匡浩	4. 巻 27
2. 論文標題 古代エジプトの稀覯本：シャンポリオン『ダシエ氏への書簡』	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『図書の譜 明治大学図書館紀要』	6. 最初と最後の頁 111-118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤結華・馬場匡浩	4. 巻 24
2. 論文標題 會津八一記念博物館所蔵の黒頭赤器手付版	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 早稲田大学會津八一記念博物館研究紀要	6. 最初と最後の頁 97-110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 YAMAZAKI, Seria	4. 巻 21
2. 論文標題 Repeating the Ritual Underground: Performance of the Rual Object Ritual in the Middle Kingdom, Gracia Zamacona, Carlos (ed.) Variability in the Earlier Egyptian Mortuary Texts	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Harvard Egyptological, Studies, , Boston and Leiden: Brill	6. 最初と最後の頁 161-189
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Nozomu Kawai	4. 巻 -
2. 論文標題 Exploring the New Kingdom Tombs at North Saqqara: Preliminary results of the Archaeological Survey at North Saqqara. The 2016 and 2017 season,	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Abusir and Saqqara in the year 2020, ed. by M. Barta, F. Coppens, Prague	6. 最初と最後の頁 245-262
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nozomu Kawai	4. 巻 -
2. 論文標題 A Newly discovered Roman catacomb at North Saqqara: Recent results and future prospects	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Abusir and Saqqara in the year 2020, ed. by M. Barta, F. Coppens, Prague	6. 最初と最後の頁 331-346
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 周藤芳幸	4. 巻 4
2. 論文標題 ヘレニズム時代のエジプトにおける都市と港	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 山田重郎編『都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究4』研究成果報告2021年度	6. 最初と最後の頁 141-148
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Y. Suto	4. 巻 -
2. 論文標題 Social Resilience and Organization of Knowledge in Ptolemaic Egypt	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Transmission and Organization of Knowledge in the Ancient Mediterranean World, Phoibos Verlag, ed. by Y. Suto	6. 最初と最後の頁 187-198
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Y. Suto	4. 巻 -
2. 論文標題 Horizontal Galleries at the Ptolemaic Quarry on New Minya	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Preliminary Report Akoris 2020, Nagoya	6. 最初と最後の頁 6-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Keiko Tazawa, Kyoko Ikari	4. 巻 -
2. 論文標題 Re-discovering Ancient Egyptian Treasures in Nariwa	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Offerings to Maat, Essays in Honour of Emily Teeter, CIPEG	6. 最初と最後の頁 207-218
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 J. Wang, R. Friedman, M. Baba	4. 巻 64
2. 論文標題 Predynastic beer production, distribution, and consumption at Hierakonpolis, Egypt	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Anthropological Archaeology	6. 最初と最後の頁 101347-
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 M. Baba	4. 巻 -
2. 論文標題 Firing temperature of Predynastic pottery from Hierakonpolis	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Remove that Pyramid!: Studies on the Archaeology and History of Predynastic and Pharaonic Egypt in Honour of Stan Hendrickx, Peeters,	6. 最初と最後の頁 65-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長谷川 奏	4. 巻 4
2. 論文標題 砂丘景観の形成と遺跡テリトリー：コム・アル＝ディバウ遺跡の堆積層から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 山田重郎編『都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究4』研究成果報告2021年度	6. 最初と最後の頁 149-153
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Jiro Kondo, S.Yoshimura, N. Kawai, K. Takahashi, R. Fukuda	4. 巻 27
2. 論文標題 Preliminary Report on the Thirteenth Season of the Work at al-Khokha Area in the Theban Necropolis by the Waseda University Egyptian Expedition	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Egyptian Studies	6. 最初と最後の頁 3-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤二郎、吉村作治、河合望、高橋寿光、福田莉紗	4. 巻 27
2. 論文標題 第13次ルクソール西岸アル=コーカ地区調査概報	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 エジプト学研究	6. 最初と最後の頁 18-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nozomu Kawai	4. 巻 57
2. 論文標題 Discovery of a Roman Catacomb at North Saqqara	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Egyptian Archaeology	6. 最初と最後の頁 10-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Y. Suto, R. Takahashi, S. Uchida, T. Ogawa	4. 巻 -
2. 論文標題 Epigraphic Survey in the New Miniia Quarry	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Preliminary Report Akoris 2019	6. 最初と最後の頁 20-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤二郎・吉村作治・柏木裕之・河合望・高橋寿光・福田莉紗	4. 巻 26
2. 論文標題 第12次ルクソール西岸アル=コーカ地区調査概報	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 エジプト学研究	6. 最初と最後の頁 74-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤二郎	4. 巻 49
2. 論文標題 エジプト・古都テーベの発掘	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 史学論集	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤二郎	4. 巻 -
2. 論文標題 アメンヘテプ4世のテーベの王墓	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 オシリスへの贈物：エジプト考古学の最前線	6. 最初と最後の頁 53-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河合 望	4. 巻 -
2. 論文標題 サッカラ遺跡における新王国時代の墓地の分布と新たに発見された墓地について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 オシリスへの贈物：エジプト考古学の最前線	6. 最初と最後の頁 77-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内田杉彦	4. 巻 2
2. 論文標題 新王国時代の文字資料にみられる「居住地」の呼称について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 都市文明の本質 古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究2	6. 最初と最後の頁 145-150
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 周藤芳幸	4. 巻 2
2. 論文標題 エジプト地方都市の通時的盛衰ーアコリスの場合ー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 都市文明の本質 古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究 2	6. 最初と最後の頁 151-156
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西本真一	4. 巻 2
2. 論文標題 マルカタ都市王宮における景観と構造	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 都市文明の本質 古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究 2	6. 最初と最後の頁 157-159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤二郎・吉村作治・菊地敬夫・柏木裕之・河合望・高橋寿光・米山由夏	4. 巻 25
2. 論文標題 第11次ルクソール西岸アル=コーカ地区調査概報	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 エジプト学研究	6. 最初と最後の頁 25-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉村作治・矢澤健・近藤二郎・柏木裕之・山崎世理愛・石崎野々花・有村元春	4. 巻 25
2. 論文標題 エジプト ダハシュール北遺跡調査報告第25次調査	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 エジプト学研究	6. 最初と最後の頁 3-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柏木裕之	4. 巻 41
2. 論文標題 古代エジプト、クフ王第2の船の甲板室に用いられた建造技術について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 地中海学研究	6. 最初と最後の頁 107 - 124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤二郎	4. 巻 1
2. 論文標題 古代エジプトの祝祭都市テーベの景観と構造	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究	6. 最初と最後の頁 107-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河合 望	4. 巻 1
2. 論文標題 メンフィスとその墓地の景観と構造についての予察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究	6. 最初と最後の頁 113-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計80件 (うち招待講演 31件 / うち国際学会 30件)

1. 発表者名 田澤恵子
2. 発表標題 古代エジプトとメソポタミアの神話にみられる社会福祉の比較
3. 学会等名 日本宗教学会、第81回学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 TAZAWA, Keiko
2. 発表標題 The Functions of ancient Egyptian Myths: Cultural memory and identity from the perspective of comparative mythology
3. 学会等名 Tokyo Egyptology Symposium 200 Years after Champollion Text and Context in Ancient Egypt
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 矢澤 健
2. 発表標題 ダハシュール北遺跡最新発掘レポート(2022)
3. 学会等名 東日本国際大学エジプト考古学研究所第6回公開研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 矢澤 健
2. 発表標題 古代エジプトの州都の立地と砂漠の道
3. 学会等名 「西アジア都市」領域全体研究会、特別講演会、2022年11月
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 矢澤 健
2. 発表標題 古代エジプト中王国時代の高級官僚を支えた人々 ダハシュール北遺跡からの視点
3. 学会等名 早稲田大学考古学会公開講演会、2022年12月
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 矢澤 健
2. 発表標題 紀元前2千年紀エジプトの葬制の変遷を探る ダハシュール北遺跡第28次調査(2022)
3. 学会等名 第30回西アジア発掘調査報告会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 進藤瑞生・馬場匡浩
2. 発表標題 カノボス壺の変遷と棺・「死者の書」からの影響ーダハシュール北遺跡出土資料を中心に
3. 学会等名 日本オリエント学会第64回年次大会、2022年10月
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 伊藤結華・馬場匡浩
2. 発表標題 早稲田大学會津八一記念博物館所蔵の「黒頭赤器手付碗」
3. 学会等名 日本オリエント学会第64回年次大会、2022年10月
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 馬場匡浩・宮崎澪菜
2. 発表標題 ダハシュール北遺跡の神官タの墓
3. 学会等名 日本オリエント学会第64回年次大会、2022年10月
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 BABA, Masahiro
2. 発表標題 Revealing elite's ritual landscape at Hierakonpolis
3. 学会等名 Origins 7: The 7th International Conference on Predynastic and Early Dynastic Egypt, 2022年9月
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 馬場匡浩
2. 発表標題 エジプト考古学のリアル
3. 学会等名 岡山市立オリエン特美術館、連続講演会『オリエン特古代の探求4』、2022年9月
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 馬場匡浩
2. 発表標題 古代エジプトの供物儀礼の成り立ちを考える
3. 学会等名 日本西アジア考古学会第27回大会、2022年7月
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山崎世理愛
2. 発表標題 エジプト中王国時代末期の葬送儀礼にみられる伝統の変化とその継承
3. 学会等名 日本オリエン特学会第64回年次大会、2022年10月
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 KAWAI, Nozomu
2. 発表標題 Understanding the Reign of Tutankhamun and his predecessor from the objects in the Tomb of Tutankhamun
3. 学会等名 International Colloquium Tutankhamun and Carter:: Assessing the Impact of a Major Archaeological Fund, Lisbon (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 KAWAI, Nozomu
2. 発表標題 Some Remarks on Tutankhamun Officialdom
3. 学会等名 Transcending Eternity: The Centennial Tutankhamun Conference 2022 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 KAWAI, Nozomu
2. 発表標題 Some Remarks on the Locations and Nature of the New Kingdom Cemeteries at North Saqqara
3. 学会等名 Prospects of North Saqqara, The Egypt Exploration Society, June 2022 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 KAWAI, Nozomu
2. 発表標題 Neferneferuaten from the tomb of Tutankhamun Revisited
3. 学会等名 The 73rd Annual Meeting of the American Research Center in Egypt, Irvine, USA (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 KAWAI, Nozomu
2. 発表標題 Tutankhamun ' s canopied ceremonial chariot, A vecle for the Afterlife
3. 学会等名 Kanazawa Egyptology Symposium 2022, Archaeology of Death Rituals and Afterlife in Ancient Egypt. Kanazawa University, 2022
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 NAKANO, Tomoaki
2. 発表標題 Ancestral Worship in the First Dynasty Cemetery at Saqqara
3. 学会等名 Kanazawa Egyptology Symposium 2022, Archaeology of Death Rituals and Afterlife in Ancient Egypt. Kanazawa University, 2022 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 YAMAZAKI, Seria
2. 発表標題 Repeating the ritual under the ground: Performance of the royal object ritual in the Middle Kingdom
3. 学会等名 The University of Alcalá, The Mortuary Conference, 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 BABA, Masahiro
2. 発表標題 Revealing elite's ritual landscape at Hierakonpolis
3. 学会等名 Egypt at its Origins 7: The 7th International Conference on Predynastic and Early Dynastic Egypt, Paris, Sept. 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Nadine Moeller
2. 発表標題 Challenges and new approaches for studying ancient Egyptian urbanism
3. 学会等名 Cities and Urbanization in West Asia and Egypt - Shapes, Functions, and Ideology (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Juan Carlos Moreno Garcia
2. 発表標題 Towns, royal estates and harbours: settlement organization and flows of wealth in the third and early second millennium BC.
3. 学会等名 Cities and Urbanization in West Asia and Egypt - Shapes, Functions, and Ideology (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 KONDO, Jiro
2. 発表標題 The layout of the monuments in the city of Thebes
3. 学会等名 Cities and Urbanization in West Asia and Egypt - Shapes, Functions, and Ideology (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 SUTO, Yoshiyuki
2. 発表標題 Cities, villages, and countryside in Egypt under the Ptolemaios
3. 学会等名 Cities and Urbanization in West Asia and Egypt - Shapes, Functions, and Ideology (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Juan Carlos Moreno Garcia
2. 発表標題 Building a state in Egypt (3100-1800 BC): the relations between centre and periphery
3. 学会等名 古代エジプトの都市と集落：中心と周縁、June 5 2023 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Nadine Moeller
2. 発表標題 Tell Edfu - Recent discoveries at a provincial capital
3. 学会等名 古代エジプトの都市と集落：中心と周縁、June 5 2023 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Gregory Marouard
2. 発表標題 Wadi al-Jarf, the King Khufu's Harbor on the Red Sea and its Links to the Early 4th Dynasty Pyramids
3. 学会等名 古代エジプトの都市と集落：中心と周縁、June 5 2023 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Juan Carlos Moreno Garcia
2. 発表標題 'Hidden forces': Trade, nomads local potentates and their contribution in shaping ancient Egypt
3. 学会等名 古代エジプト集落研究の現状：地方都市における交易、遊牧民、地方支配者を中心に、June 8 2023 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Nadine Moeller
2. 発表標題 Tell Edfu - Recent discoveries at a provincial capital
3. 学会等名 古代エジプト集落研究の現状：地方都市における交易、遊牧民、地方支配者を中心に、June 8 2023（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Gregory Marouard
2. 発表標題 Wadi al-Jarf, the King Khufu's Harbor on the Red Sea and its Links to the Early 4th Dynasty Pyramids
3. 学会等名 古代エジプト集落研究の現状：地方都市における交易、遊牧民、地方支配者を中心に、June 8 2023（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 内田杉彦
2. 発表標題 カマン・カレホユック、ヤッスホユック両遺跡出土スカラベについて
3. 学会等名 アナトリア考古学研究所第30回トルコ調査研究会、2023年3月（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 TAZAWA, Keiko
2. 発表標題 Developments and Expansions of Networks between Local, Private, and National Museums for Egyptian/Sudanese Collections in Japan
3. 学会等名 Annual CIPEG Meeting, 2023
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 矢澤 健・吉村作治
2. 発表標題 エジプト新王国時代のシャフト墓のタイプ分類試論
3. 学会等名 日本西アジア考古学会第28回総会・大会、2023年6月24日
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 矢澤 健
2. 発表標題 古代エジプト墓地研究の最前線：ダハシュール北遺跡調査最新報告
3. 学会等名 東日本国際大学エジプト考古学研究所第7回公開研究会、2023年7月25日
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 矢澤 健
2. 発表標題 古代エジプト文明にとって船はなぜ大事だったのか
3. 学会等名 第10回太陽の船シンポジウム：太陽の船復原～完成に向けて、2023年12月
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 矢澤 健、吉村作治
2. 発表標題 紀元前2千年起エジプトの葬制の変遷を探る ダハシュール北遺跡第29次調査(2023)
3. 学会等名 第31回 西アジア発掘調査報告会報告集、日本西アジア考古学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 近藤二郎
2. 発表標題 ウセルハト墓 (TT47) とコンスウエムヘブ墓 (KHT02) エジプト、ネクロポリス・テーベ。アル=コーカ地区、第14次調査
3. 学会等名 第31回 西アジア発掘調査報告会報告集、日本西アジア考古学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 河合 望
2. 発表標題 エジプト、サッカラ・ネクロポリスの展開を探るーエジプト、第6次・第7次北サッカラ遺跡調査 (2023)
3. 学会等名 第31回 西アジア発掘調査報告会報告集、日本西アジア考古学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 長谷川奏・西本真一ほか
2. 発表標題 ヘレニズム村落の構造を探る エジプト・イドゥク湖沿岸コム・アル=ディバーウ遺跡の考古学調査 (2023)
3. 学会等名 第31回 西アジア発掘調査報告会報告集、日本西アジア考古学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 長谷川奏・徳永里砂・西本真一ほか
2. 発表標題 中世の港町の構造を探る サウジアラビア紅海沿岸ハウラー遺跡の考古学調査 (2023)
3. 学会等名 第31回 西アジア発掘調査報告会報告集、日本西アジア考古学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 馬場匡浩
2. 発表標題 エジプト王朝成立とビール
3. 学会等名 日本西アジア考古学会第28回総会・大会、2023年6月24日
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 YAMAZALI, Seria
2. 発表標題 Jewelry in the Funerary Ritual since the Middle Kingdom
3. 学会等名 The XVIIIth International Congress of Egyptologists, , Aug. 2023, Leiden (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 YAMAZAKI, Seria
2. 発表標題 Non-Royal Tombs and Funerary Rituals in Ancient Egypt
3. 学会等名 International Workshop Studies on Middle Eastern Heritage Science, Feb. 2024 (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 KAWAI, Nozomu
2. 発表標題 New excavation at North Saqqara. Revealing the development of funerary landscape through millennia
3. 学会等名 Egyptological Seminar under Tower, University of Pisa, 2023 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 KAWAI, Nozomu
2. 発表標題 Tutankhamun's Reign - What New Evidence Reveals
3. 学会等名 Museo Egizio Lecture, Dec. 2023 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 河合 望
2. 発表標題 北サッカラ遺跡のグレコ・ローマン時代のカタコンベとその周辺の調査について 第6次・第7次北サッカラ遺跡調査概報
3. 学会等名 日本オリエント学会第65回大会、2023
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 KAWAI, Nozomu
2. 発表標題 Tutankhamun 's Canopied Ceremonial Chariot, A Royal Vecle for the Afterlife
3. 学会等名 The XVIIIth International Congress of Egyptologists, , Aug. 2023, Leiden (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 近藤二郎
2. 発表標題 日本におけるエジプトコレクション
3. 学会等名 古代エジプト美術館展講演会、福岡アジア美術館、あじびホール、Apr. 2023 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 近藤二郎
2. 発表標題 アメンヘテプ3世王墓(KV22)と王家の谷・西谷
3. 学会等名 特別講演会、ツタンカーメン王墓発掘100周年、エジプト王家の谷発掘調査の現在、Apr. 2023 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 近藤二郎
2. 発表標題 エジプト考古学の現在 ツタンカーメン王墓発見100周年ー
3. 学会等名 第48回栃木県オリエントセミナー、2023年5月20日 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 近藤二郎
2. 発表標題 エジプト新王国第18王朝時代の王墓：その立地と構造
3. 学会等名 日本西アジア考古学会第28回総会・大会、2023年6月 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 近藤二郎
2. 発表標題 古代エジプトの信仰と死生観
3. 学会等名 古代エジプト美術館展講演会、いわき市立美術館、2023年7月 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 近藤二郎
2. 発表標題 古代エジプト人の信仰と死生観
3. 学会等名 古代エジプト美術館展講演会、東広島市立美術館、2023年11月（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Nozomu Kawai
2. 発表標題 Tutankhamun and his men and women: Status and Representations of the Officials under Tutankhamun
3. 学会等名 The 72nd Annual Meeting of the American Research Center in Egypt (Online) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 河合 望
2. 発表標題 ツタンカーメン王の天蓋付き二輪馬車と王権
3. 学会等名 日本考古学協会2021年度金沢退会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 河合 望
2. 発表標題 エジプト学のフィールドワークにおける新しい記録方法と研究成果のデジタル化について
3. 学会等名 研究環境の変貌と東洋学・アジア研究、東洋学・アジア研究連絡協議会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 辻村純代・川西宏幸・花坂 哲
2. 発表標題 前1千年紀の庶民社会と採石場
3. 学会等名 第29回西アジア発掘報告会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 長谷川 奏・西本真一・恵多谷雅弘
2. 発表標題 ヘレニズム村落の構造を探る
3. 学会等名 第29回西アジア発掘報告会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 近藤二郎
2. 発表標題 ネクロポリス・テーベ研究;エジプト、ルクソール西岸アル=コーカ地区、第13次調査
3. 学会等名 第28回西アジア発掘報告会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 河合 望
2. 発表標題 王権シンボルとしてのトゥトアメン王の天蓋付きのチャリオット
3. 学会等名 金沢大学エジプト学セミナー・ファラオの王権を考える
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 河合 望
2. 発表標題 エジプト、サッカラ遺跡で 新発見
3. 学会等名 金沢大学超然プロジェクト「古代文明の学際研究の世界的拠点形成」オンライン・シンポジウム、世界の古代文明をめぐる最新調査研究、 金沢大学
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Nozomu Kawai
2. 発表標題 Excavating the first Roman Catacomb at Saqqara
3. 学会等名 Egypt Exploration Society Online Lecture (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 河合 望
2. 発表標題 エジプト、北サッカラ遺跡の未知の墓を掘る：ローマ支配期のカタコンベの意義および今後の調査の展望
3. 学会等名 第28回西アジア発掘調査報告会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中野智章
2. 発表標題 エジプト初期王権はどのような性格を有していたか
3. 学会等名 金沢大学エジプト学セミナー・ファラオの王権を考える (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 馬場匡浩
2. 発表標題 先王朝時代の儀礼祭祀の痕跡か？：エジプト、ヒエラコンポリス遺跡の発掘調査
3. 学会等名 第28回西アジア発掘報告会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 矢澤 健
2. 発表標題 ダハシュール北遺跡調査 最新発掘レポート
3. 学会等名 東日本国際大学エジプト考古学研究所 第5回公開研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 河合 望
2. 発表標題 古代エジプトにおける都市の景観と構造：新王国時代を中心に
3. 学会等名 新学術領域・都市文明の本質、第1回合同研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 HASEGAWA, So
2. 発表標題 Hellenistic Village Site at Kom al-Diba', Bahaira: Reconstructed Images of the Landscape at the South of Lake Idku
3. 学会等名 The 6th Delta Survey Workshop, Mansura University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 KONDO, Jiro
2. 発表標題 The Tomb of Userhat (TT47) and the Large Rock-cut Tombs in Thebes under the Reign of Amenhotep III and Amenhotep IV
3. 学会等名 International Symposium Thebes under Amenhotep III (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 近藤二郎
2. 発表標題 エジプトにおける文字記録の抹殺とアレクサンドリア大図書館の焼失
3. 学会等名 文化遺産国際協力コンソーシアム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 近藤二郎
2. 発表標題 エジプト古王国時代のピラミッド
3. 学会等名 歴博国際シンポジウム・日本の古墳はなぜ巨大なのか? (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kawai, Nozomu
2. 発表標題 Tutankhamun's blocks from Heliopolis in the Egyptian Museum. Cairo
3. 学会等名 CIPEG Annual Meeting 2018, Swansea University (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kawai, Nozomu
2. 発表標題 Some Remarks on the lion goddess at North Saqqara
3. 学会等名 Goden van Saqqara, National Museum of Antiquities, Leiden (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nakano, Tomoaki
2. 発表標題 Between Old and New: A Marker of Kingship on the Statues of Ptolemaic Kings
3. 学会等名 4th Euro-Japanese Colloquium on the Ancient Mediterranean World (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Suto, Yoshiyuki
2. 発表標題 Social Resilience and Organization of Knowledge in Ptolemaic Egypt
3. 学会等名 4th Euro-Japanese Colloquium on the Ancient Mediterranean World (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中野智章
2. 発表標題 エジプト第1王朝のサッカラの墓地における付属墓について
3. 学会等名 日本オリエント学会第60回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 河合 望
2. 発表標題 ヘリオポリス出土のトゥトアଙ୍କアメン王銘入りレリーフ・ブロックについて
3. 学会等名 日本オリエント学会第60回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 柏木裕之
2. 発表標題 クフ王第2の船の木材搬入方法について
3. 学会等名 日本オリエント学会第60回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 内田杉彦
2. 発表標題 古代エジプトにおける地震
3. 学会等名 明倫短期大学95回月例研究会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計18件

1. 著者名 周藤芳幸（編）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 448
3. 書名 古代地中海世界と文化的記憶	

1. 著者名 中野智章	4. 発行年 2022年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 448
3. 書名 「ある古代エジプト王像に彫られた文様の記憶」『古代地中海世界と文化的記憶』周藤芳幸（編）、87-113頁	

1. 著者名 田澤恵子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 448
3. 書名 「古代エジプト王朝時代における『あるべき過去』とその媒体」『古代地中海世界と文化的記憶』周藤芳幸（編）、67-86頁	

1. 著者名 Nozomu KAWAI and Benedict G. DAVIES (Editors)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Abercromby Press	5. 総ページ数 587
3. 書名 The Star Who Appears in Thebes. Studies in Honour of Jiro Kondo	

1. 著者名 KAWAI, Nozomu	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Abercromby Press	5. 総ページ数 587
3. 書名 "Intact Simultaneous Multiple Burials on the slope of an Outcropping in North Saqqara.", in The Star Who Appears in Thebes. Studies in Honour of Jiro Kondo, pp.183-206	

1. 著者名 BABA, Masahiro	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Abercromby Press	5. 総ページ数 587
3. 書名 "An Intact Pit-burial Discovered at Dahshur North", in The Star Who Appears in Thebes. Studies in Honour of Jiro Kondo, pp.43-51	

1. 著者名 SUTO, Yoshiyuki	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Abercromby Press	5. 総ページ数 587
3. 書名 "Pausanias on Egyptian Monuments and History", in The Star Who Appears in Thebes. Studies in Honour of Jiro Kondo, pp.451-463	

1. 著者名 TAZAWA, Keiko	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Abercromby Press	5. 総ページ数 587
3. 書名 "Transforming Goddesses in Ancient Egypt", in The Star Who Appears in Thebes. Studies in Honour of Jiro Kondo, pp492-499	

1. 著者名 YAMAZAKI, Seria	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Abercromby Press	5. 総ページ数 587
3. 書名 "Tradition and Innovation in the Royal Object Ritual During the Middle Kingdom", in The Star Who Appears in Thebes. Studies in Honour of Jiro Kondo, pp.510-524	

1. 著者名 YAZAWA, Ken	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Abercromby Press	5. 総ページ数 587
3. 書名 "The Archaeological Context of Small Faience Items in a late Middle Kingdom Tomb in Dahshur North: Evidence for the Sealing Rite of the Burial Chamber?", in The Star Who Appears in Thebes. Studies in Honour of Jiro Kondo, pp.533-542	

1. 著者名 田澤恵子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 古代オリエント博物館	5. 総ページ数 48
3. 書名 おまもりとハンコとコイン 古代オリエントの偉大なる小さきものたち	

1. 著者名 大黒俊二・林 佳世子(責任編集)、近藤二郎・橋場 弦(編集協力)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 320
3. 書名 岩波講座 世界歴史2 古代西アジアとギリシア～前1世紀	

1. 著者名 近藤二郎	4. 発行年 2023年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 320
3. 書名 「古代西アジアー新石器時代からヘレニズム時代まで」『岩波講座 世界歴史2 古代西アジアとギリシア～前1世紀』3-42	

1. 著者名 馬場匡浩	4. 発行年 2023年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 320
3. 書名 初期国家形成期のエジプトーヒエラコンポリス遺跡にみる社会の複雑化」『岩波講座 世界歴史2 古代西アジアとギリシア～前1世紀』165-180『	

1. 著者名 河合 望	4. 発行年 2023年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 320
3. 書名 「新王国時代第一八王朝のエジプト」『岩波講座 世界歴史2 古代西アジアとギリシア～前1世紀』199-215	

1. 著者名 河合 望	4. 発行年 2021年
2. 出版社 雄山閣	5. 総ページ数 298
3. 書名 古代エジプト全史	

1. 著者名 近藤二郎	4. 発行年 2020年
2. 出版社 エクスナレッジ	5. 総ページ数 159
3. 書名 古代エジプト解剖図鑑	

1. 著者名 近藤二郎	4. 発行年 2021年
2. 出版社 誠文堂新光社	5. 総ページ数 400
3. 書名 星座の起源：古代エジプト・メソポタミアにたどる星座の歴史	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	内田 杉彦 (Uchida Sugihiko) (00211772)	金沢大学・古代文明・文化資源学研究所・客員研究員 (13301)	
研究分担者	馬場 匡浩 (Baba Masahiro) (00386583)	東日本国際大学・エジプト考古学研究所・客員准教授 (31604)	
研究分担者	河合 望 (Kawai Nozomu) (00460056)	金沢大学・新学術創成研究機構・教授 (13301)	
研究分担者	西本 真一 (Nishimoto Shinichi) (10198517)	日本工業大学・建築学部・教授 (32407)	
研究分担者	矢澤 健 (Yazawa Ken) (10454191)	東日本国際大学・エジプト考古学研究所・客員教授 (31604)	

6. 研究組織 (つづき)

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	田澤 恵子 (Tazawa Keiko) (30598587)	(財) 古代オリエント博物館・研究部・研究員 (72601)	
研究分担者	辻村 純代 (Tsujimura Sumiyo) (60183480)	公益財団法人古代学協会・その他部局等・客員研究員 (74306)	
研究分担者	柏木 裕之 (Kashiwagi Hiroyuki) (60277762)	東日本国際大学・エジプト考古学研究所・客員教授 (31604)	
研究分担者	高宮 いづみ (Takamiya Izumi) (70221512)	近畿大学・文芸学部・教授 (34419)	
研究分担者	周藤 芳幸 (Suto Yoshiyuki) (70252202)	名古屋大学・人文学研究科・教授 (13901)	
研究分担者	長谷川 奏 (Hasegawa So) (80318831)	早稲田大学・総合研究機構・客員上級研究員(研究院客員教授) (32689)	
研究分担者	中野 智章 (Nakano Tomoaki) (90469627)	中部大学・国際関係学部・教授 (33910)	
研究分担者	山崎 世理愛 (Yamazaki Seria) (50844164)	早稲田大学・文学学術院・講師(テニユアトラック) (32689)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
エジプト	GEM C.C. (Conservation Center)	E-JUST	Ministry of Antiquities, Egypt	他2機関
英国	ICON, UK			
スペイン	FIVI 2000, S. L. CO.			
米国	American Research Center, Egypt	Johns Hopkins University	University of Chicago	他1機関